

## 神奈川・史跡建長寺境内

地で、方丈龍王殿の南側に位置しており、山門・仏殿・法堂といった建長寺中心伽藍域の最深部にある。

- 1 在所地 神奈川県鎌倉市山ノ内八  
2 調査期間 二〇〇〇年（平12）一月～七月  
3 発掘機関 鶴見大学史跡建長寺境内発掘調査団（団長大三輪  
龍彦）

- 4 調査担当者 宮田 真・手塚直樹

- 5 遺跡の種類 寺院跡

- 6 遺跡の年代 鎌倉時代～近代

- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



（横須賀）

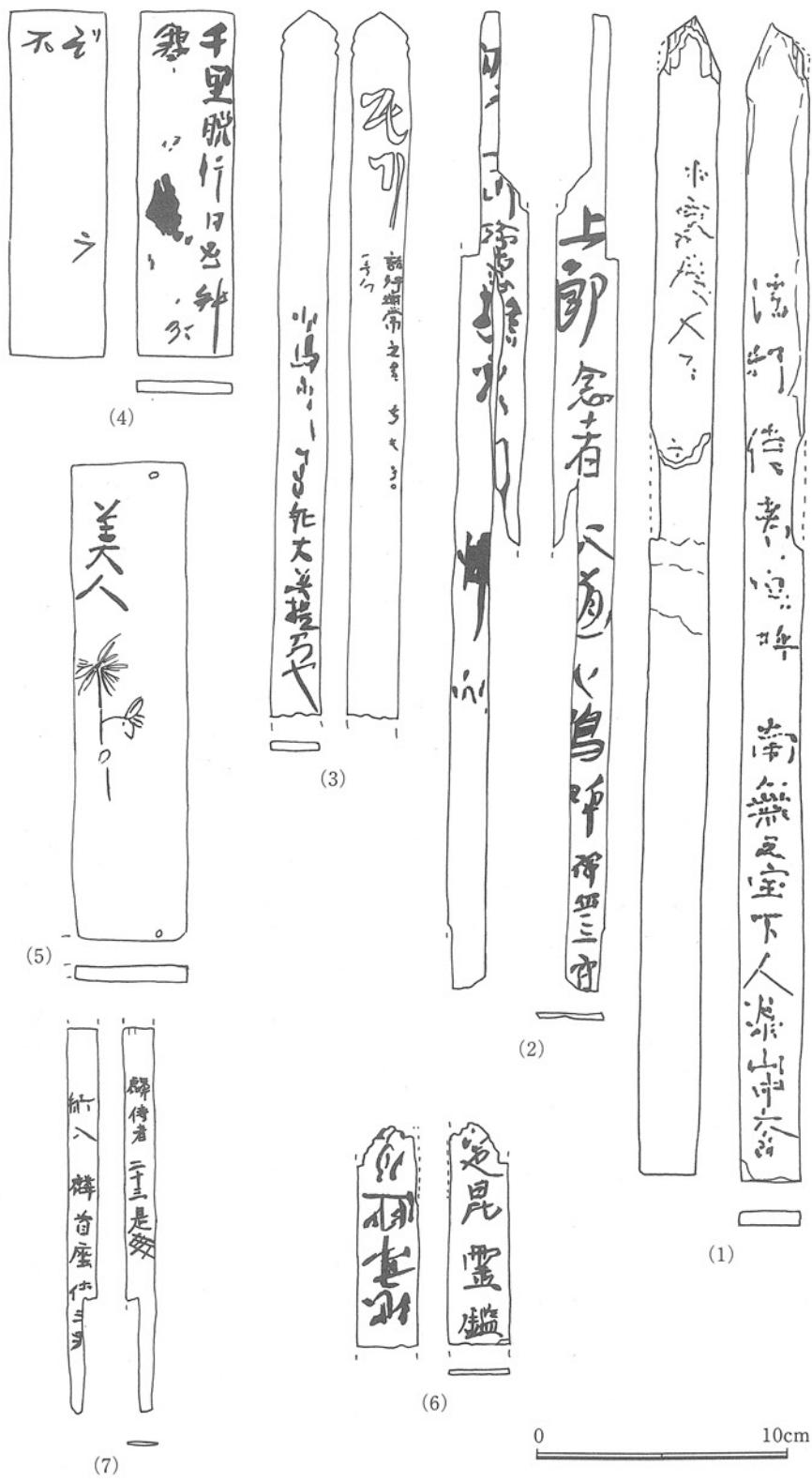
本遺跡は鎌倉五山第一位に格付けされる建長寺境内にある。建長寺は県道横浜・鎌倉線巨福呂坂洞門の北側（北鎌倉側）に所在する寺院で、臨濟宗建長寺派の大本山である。本山は開山蘭溪道隆、開基北条時頼によつて建長五年（一二五三）に創建された。

調査地点は客殿紫雲閣跡

調査の結果、多期に亘る建築遺構や池遺構が検出された。特に池は創建期から現代に至るまでの変遷を掴むことができ、また各期の覆土中からは膨大な量と種類の出土遺物を得た。中世期の池底は三期（池一～三）を数え、木簡は池一～三覆土中からの出土品である。なお各池の年代は整理途上の二〇〇一年七月現在、池一が創建期～一二世紀末頃、池二が一二世紀末～三四世紀初頭頃～三四世紀後半頃、池三が三四世紀後半以降と考へている。

また池三の覆土中からは、応永二年（一四一四）の建長寺大火の際の罹災品が池への投げ込みの形で一括廃棄されていた。それの中には、焼け焦げた建材や仏具に混ざつて漆器製の饗膳具など、当時寺域内に生きる人々の、息遣いを感じさせる貴重な用品も大量に発見された。

2001年出土の木簡



・「 経入 麟首座□□□

(156)×(12.5)×1 081

(宮田 真)

- (1) 「法門侍者鳴呼 南無[宝]ト人某山中六□」

「□□」

467.5×24.5×6.5 011

- (2) 「 上郎念者□道也鳴呼南無[宝]

「□□」

(395)×26×2.5 081

- (3) 「□□ 諸行無常之□ □□□

〔馬カ等〕□□□□□大菩提□也

(285)×23×3 019

- (4) 「千里脱行日□□  
鶴□□□」

「□□ □□」

140×39×4.5 011

「美人(絵)」

194×(46)×6 081

- (5) 「□毘靈鑑

「□□」

89×24×2 081

- (1) (2)は願文を記したものである。